

生徒のやる気を引き出す 伝え方のアイデアをひねる

現状に満足せず、常にもっといい指導、生徒に届く言葉を探している和田宣子先生。先生の繰り出すさまざまなアイデアが生徒の心を動かしています。

和田先生がクラス全体に何かを言うときは、その場の思いつきでの発言や単純な注意・叱責はしない。「生徒の貴重な時間をもらって話すのだから、効果的に伝わるよう、事前にシナリオを考えます」。

昨年担任したクラスでは、「1年D組のDはダイヤモンドのD」と決めた。素直で明るい、努力が苦手な生徒が多い。もっと彼らに輝いてほしいという思いを込めた。「君たちはダイヤモンドじゃなかったのか」「磨けば輝くはずだ」など、1年を通してそれにちなんだ声かけを続けた。

クラス全員にこまめに声かけ 最後は励ましの手紙を贈る

一人ひとりへの目配りもきめ細かい。「必要以上にベタベタしませんが、見ているよ、という信号は常に発信しています。変化や努力が見られれば、必ず声をかけます。生徒は「なんでそんなことまで知ってるの?」と驚いたりしますね」。

3学期の期末テストの1週間前、生徒はイマイチやる気がない。焦った先生は一晚

寝ないで考えた。「手紙しかない!」。

次の日、授業の合間にクラス35人全員に手紙を書き続けた。「○○さん、私はあなたの○○を尊敬している。あのときのあの行動がクラスのみんを勇気づけた。最後のテストを頑張れ」。クラスは俄然活気づき、翌日にはテストに向けて頑張る雰囲気が生まれた。日々生徒一人ひとりを観察し続けてきたからこそできた、効果的な伝え方。和田先生の真骨頂だった。

自分の考えを文章にする力を 国語の授業で育てたい

国語の授業でも常に新しいことに挑戦している。「自分で考え自分の意見を言った授業は強く記憶に残るもの。なるべく多くの生徒が発言できるような授業をしています」。今年度、力を入れたいのは文章力アップ。社会に出て必要になる「自分を表現する力」や「考えや意見を文章にする力」を身につけさせたいと考えている。そのために自作のオリジナルテキストを使って授業を行っている。



東京都立淵江高校
和田宣子先生 (28歳)

私立新潟明訓高校、埼玉大学教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース国語専修卒。新潟の私立高校で1年、公立中学校で2年の勤務を経て東京都教員採用試験に合格。2009年度より現任校へ。モットーは「創意工夫」。植物好きで、教室に生徒と同じ数の鉢植えをそろえ手入れしている。



昨年度の1年D組の終業式の日、生徒が黒板いっぱい感謝の言葉を寄せ書きしてくれた。思いがけないサプライズに先生も感動。生徒に思いが届いたことを実感できた。

fan message



和田先生はマメに声をかけてくれます。部活のことで悩んでいるときも「あなたならできるよ」と励ましてくれました。最後にもらった手紙はうれしかったですね。私の夢は幼稚園の先生。和田先生のように一人ひとりをきちんと理解し励ませる先生になりたいです(2学年・森菜奈恵さんより)